

梅雨に入り外に出られない日が続くこの季節。それは同時に本を読む絶好の機会でもあります。去る4月、今年の本屋大賞が発表されました。入賞作品は、どれも書店の店員さんオススメの本になっています。そこで、今月は本屋大賞に選ばれた本について紹介します。



『そして、バトンは渡された』 瀬尾 まいこ 著

血のつながらない親の間をリレーするしかなかった主人公の「森宮優子」。継父継母が変われば苗字も変わった。しかし、どれだけ親が変わっても彼女はいつも両親を愛していた。そして、両親に愛されていた――。身近な人が愛おしくなる、本屋大賞1位に輝いた感動作です。

『ひと』 小野寺 史宜 著

主人公の「柏木聖輔」は、20歳の秋、唯一の肉親である母を失い、たった1人になった。

大学を辞め、仕事を探したいと思いつつも動き出せない毎日。見えなくなった彼の未来に光が差したのはコロケを1個譲った時だった――。

人生にエールを送る感涙の青春小説です。

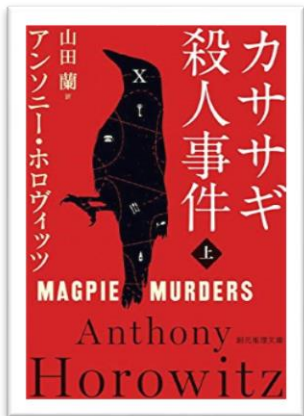


『カササギ殺人事件』

アンソニー・ホロヴィッツ 著

1955年7月、サマセット州にあるパイ屋敷の家政婦の葬儀がしめやかに執り行われた。鍵のかかった屋敷の階段の下に倒れていた彼女は、掃除機のコードに足を引っかけたのか、あるいは……。その死は、小さな村の人間関係に少しずつひびを入れていく。余命わずかな名探偵アティカス・ピュントが導き出した推理とは――。

本屋大賞翻訳部門1位を獲得、ミステリ界のトップランナーが贈る本格ミステリ小説です。



宇東図書館リクエストカードについて

図書館の受付カウンターには、図書館に置いてほしいという本をリクエストする用紙があります。読みたい本があるけれど図書館にないという場合は活用してみませんか。リクエスト用紙に必要事項を記入した後は、リクエスト用紙を入れる箱があるのでそこに入れてください。リクエストがある場合は、ぜひ活用してみてください。リクエストした本は、必ずしも購入できるとは限りませんが、検討していきたいと思えます。